

事務事業名		園芸作物生産施設整備等支援事業			担当	産業部 農政課 農業振興係		
政策名		3 「にぎわいづくり」～まちの活力アップ!～			■ 総重（総合計画重点事業） □ 戦拡（総合戦略拡充事業） □ 総新（総合計画新規事業） □ 戦新（総合戦略新規事業）	□ 単年度のみ ■ 毎年度実施（開始年度 28 年度～） □ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
施策名		1 農業の振興						
関連個別計画		真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略						
法令根拠		園芸作物生産施設整備等支援事業費補助金交付要綱、露地野菜生産拡大支援事業費補助金交付要綱			事業期間			
予算科目		1.一般会計	6.農林水産業費	1				4
予算科目								
事業概要		・園芸作物生産施設整備支援事業（平成28年度～） 園芸作物の生産拡大と新規作物の産地育成を図るため、にら、トマト、ナス、アスパラガス、春菊等の園芸作物の新規参入、生産規模拡大を支援する。 パイプハウス整備等の費用の3/10以内で補助（限度額180万円）。 ・露地野菜生産拡大支援事業（平成31年度～） 市内の露地野菜の生産拡大を図るため、露地野菜の新規生産又は生産規模拡大を支援する。 種苗代及び出荷用資材代について、 新規生産者2/3（最長3年、上限額40万円） 規模拡大生産者1/3（上限額40万円、1回限り）						

1. 現状把握の部（1）事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）				④活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
5年度実績 補助金交付事務 ・園芸作物生産施設整備支援事業（にら3件、アスパラ1件の支援） ・露地野菜生産拡大支援事業（たまねぎ1件の支援） 実績は活動指標のとおり 6年度計画 前年度同様				名称	単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(見込)	
				ア 園芸作物生産施設補助金額	千円	388	1,981	1,800	1,208	3,600	
				イ 露地野菜生産拡大支援補助金額	千円	367	473	0	400	400	
				ウ							
				エ							
				オ							
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等				⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
園芸作物生産者				名称	単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(見込)	
				ア 園芸作物農家数	戸	228	205	192	195	195	
				イ							
				ウ							
				エ							
				オ							
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか）				⑥成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
園芸作物産地の維持と農業経営の安定				名称	単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(見込)	
				ア 支援を受けた農家数	戸	2	7	1	5	5	
				イ 支援を受けた農家の割合	%	0.9	3.4	0.5	2.6	2.6	
				ウ							
				エ							
				オ							
② 総事業費の推移				単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(見込)		
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0		
			県支出金	千円	0	0	0	0	0		
			地方債	千円	0	0	0	0	0		
			その他	千円	0	0	0	0	0		
			一般財源	千円	755	2,455	1,800	1,608	4,000		
	事業費計（A）			千円	755	2,455	1,800	1,608	4,000		

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 当該事業により、園芸立国もおかの実現のため、いちご以外の園芸作物の産地維持及び産地の育成強化につながることから、市の政策に結びつく。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 当該事業により、産地維持及び産地の育成強化はもとより、本市の魅力ある農業の振興につながることから、公的関与は妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	☒ 対象・意図を見直す必要はない ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある (評価理由) 園芸立国もおかの実現に向け意欲のある生産者への支援を通じて、いちご以外の園芸作物の産地維持及び産地の育成強化につながることから、妥当である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地はない ☒ 向上余地がある (評価理由) 当該事業により、意欲のある生産者への支援を通じて、いちご以外の園芸作物の産地維持及び産地の育成強化につながるため必要である。ただし、対象農家の把握などについて、不十分であり、支援対象農家の把握を進め的確に支援を行う必要がある。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統合や連携はできないか？	☐ 類似事業と統合・連携ができる（類似の事務事業名： ） ☐ 類似事業と統合・連携できない（類似の事務事業名： ） ☒ 類似事業はない (評価理由)
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある (評価理由) いちご以外の園芸作物の産地維持及び産地の育成強化を図るために、引き続き推進する必要があることから、事業費の削減の余地はない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） ☐ 廃止 ☒ 見直し（ ☐ ：目的妥当性 ☒ ：有効性 ☐ ：効率性） ☐ 統合 ☐ 継続 効果のある周知方法の検討を継続する。	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td>△</td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td>△</td><td>△</td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			△	低下		△	△
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持			△																				
	低下		△	△																				
(2) 課題、課題の克服の方向性 これまで、ウィークリーもおかや市やJAの広報などでのお知らせやチラシの配布を通して周知を図ってきたが、対象農家が補助を知るきっかけとして見てもらえているか不明確であることから、補助事業のチラシを、真岡市やJAの部会での会議を通じて補助の周知を行い、補助対象農家への口コミでの波及効果をねらった周知方法を行うこととした。 ※スマート農業の補助では、補助を受けた農家から、口コミでいちご農家への補助の拡大に繋がった例がある。																								

4. 事務事業の2次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足（説明責任不充分） ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td>△</td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td>△</td><td>△</td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			△	低下		△	△
			コスト																						
			削減	維持	増加																				
成果	向上		○																						
	維持			△																					
	低下		△	△																					
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																									
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☒ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																								